

# さかの 農業農村整備 2025



佐賀県  
SAGA PREF.

# Agricultural Land and Farm Village Improvement in SAGA 2025



県内の取組を発信中!

## 上場地域の農業を未来へ

上場地域における稼げる農業の実践に不可欠な農業水利施設の役割と今後の展開を紹介。



NEW!

## スマート農業最前線

～自動操舵システムによる省力化・生産性向上～

自動操舵技術の導入による農作業の省力化・効率化の取り組みや基盤整備の効果を紹介。

玄界灘



## 基盤整備をきっかけに!

6次産業・高収益化への取り組み

区画整理や暗渠排水の整備後に、安定した農業経営につなげた農業法人の取り組みを紹介。



## 地域の農業を守る担い手づくり

～担い手への農地集約を目指して～

農業の将来像を描き、その実現に向けた基盤整備や農地集約などの取り組みを紹介。



## 基盤整備による地域の活性化

～持続可能な農業を目指して～

耕作放棄地の解消とともに雇用による地域の活性化を目指す企業の取り組みを紹介。



## 稼げる農業

～地域の将来を見据えた農業生産システムの確立～

農地の集約化やスマート農業の導入、6次産業化に取り組む農業法人の取り組みを紹介。



## ～農地・農業用施設を活用した内水氾濫対策～

田んぼダムやクリークの前排水など、佐賀県内水氾濫対策「プロジェクトIF」の取り組みを紹介。



## 農地整備×法人化による経営モデルの確立

～酒造好適米と大豆・キャベツの作付けによる所得向上～

農地の区画拡大や暗渠排水の整備などとともに、組織的な地域営農を実現し、所得向上につなげた取り組みを紹介。



## 目次 Contents

1. 佐賀の農業の“これまで” …P. 3
2. 佐賀の農業の“いま” …P. 5
3. 佐賀の農業の“これから” …P. 7
4. 佐賀の農業農村整備の取組 …P. 9
  - 農地・農業水利施設等の管理の適正化に向けて
  - 取組事例紹介
5. 農業農村整備の推進体制 …P.14
6. 農業農村整備予算 …P.18
7. 主要事業実施地区の概要 …P.22
8. 主要事業完了地区の概要 …P.31
9. 県内土地改良区一覧 …P.62



第47回

全国土地改良大会  
佐賀大会

2025.10.15(水)

会場 | SAGAアリーナ



# 佐賀の農業の“これまで”

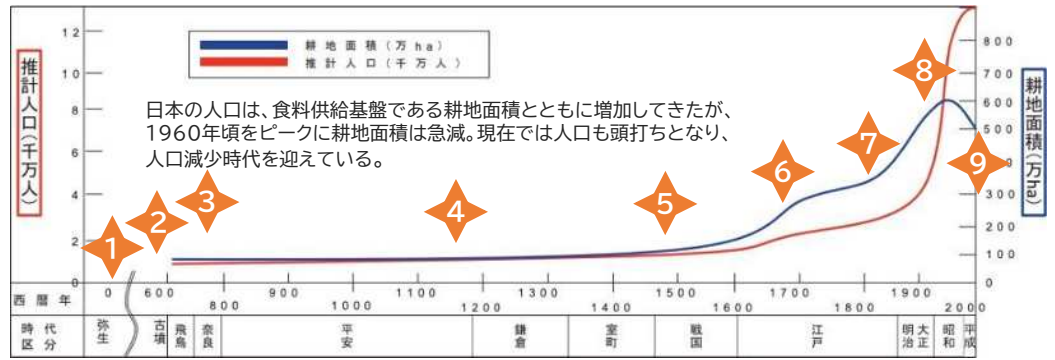
佐賀県内では、日本最古の稲作のムラ「菜畑遺跡」、大規模な環濠集落跡「吉野ヶ里遺跡」、水利調整の形跡である「一ノ瀬堰」、成富兵庫茂安の水利事業の功績「石井樋」「蛤水道」「千粟土居」「横落水路」、広大な佐賀平野を拓いた「有明海干拓」等、農業に関わる歴史遺構を各地で見ることができ、古来より農業と社会経済が密接に関わってきたことがうかがえます。

このように歴史を振り返ると、農業土木の仕事が土地改良事業と名がつく前から、我々の社会・経済・文化・生活・産業・土地・人口などに影響を与え、社会の基盤となってきたことが分かります。

これは、「土地改良」が時代の要請（ニーズ）に応じて、農地を拓き、水利を施してきた結果と言えます。この“時代の要請に答える”という土地改良の本質は、これからも変わりません。

農業・農村を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、社会情勢の変化に適応して、時代のニーズを適切に汲み取り、働きかけ方（アプローチ）を変えていくことが、これからの農業農村整備に求められています。

## 日本の耕地面積と推計人口の推移



日本の人口は、食料供給基盤である耕地面積とともに増加してきたが、1960年頃をピークに耕地面積は急減。現在では人口も頭打ちとなり、人口減少時代を迎えている。

一般社団法人 農業農村整備情報総合センター「瑞穂の国の水土里の軌跡」より

土地改良の歴史

### 古代

1 稲作伝来

2 ため池の築造

- ・ 集落(ムラ)の形成、古代国家(クニ)へ発展
- ・ 狩猟民族から農耕民族へ

3 社会制度・構造の確立

### 中世

4 条里制の開始

- ・ 「租」税収のはじまり
- ・ 測量技術による均一な区画割り

### 近世

5 戦国大名の大規模な水利工事

- ・ 土木技術を活かした治水による領国統治
- ・ 石高制などの米中心の社会システム
- ・ 経済の基盤である農業の充実と洪水への備え

### 近代

6 千拓による農地開発

- ・ 人口増加(食糧生産)を支える新田開発
- ・ 耕地面積の倍増と食糧生産量の増加
- ・ 湖沼、低湿地、干潟の開拓

### 現代

7 殖産興業政策に伴う総合開発

- ・ 人口増加(食糧生産)を支える新田開発
- ・ 耕地面積・人口のさらなる増加
- ・ 近代農法を導入し、生産効率の向上
- ・ 西欧の土木技術を取り入れた大規模な開拓

### 現代

8 土地改良法の制定

- ・ 戦後の雇用創出から復興、日本経済の成長
- ・ 大規模なかんがい施設の整備
- ・ 法制度が整い、事業として土地改良の実施

### 現代

9 これからの農業・農村整備

- ・ 三次整備(再編・統廃合)へと移行、保全管理の体制へ
- ・ 二次整備(維持・更新)
- ・ 一次整備(新設・改良)
- ・ 農業者の減少と高齢化の進行

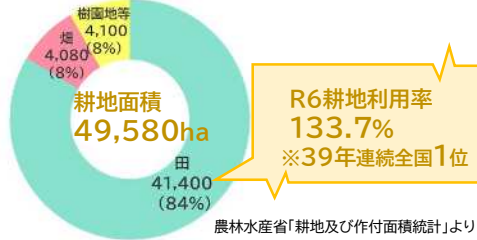
これからの土地改良は、時代の要請に答えてつづける

3

4

## 佐賀県の基礎データ ※令和7年9月時点

面積 **2,440 km<sup>2</sup>**  
人口 **781,686 人**

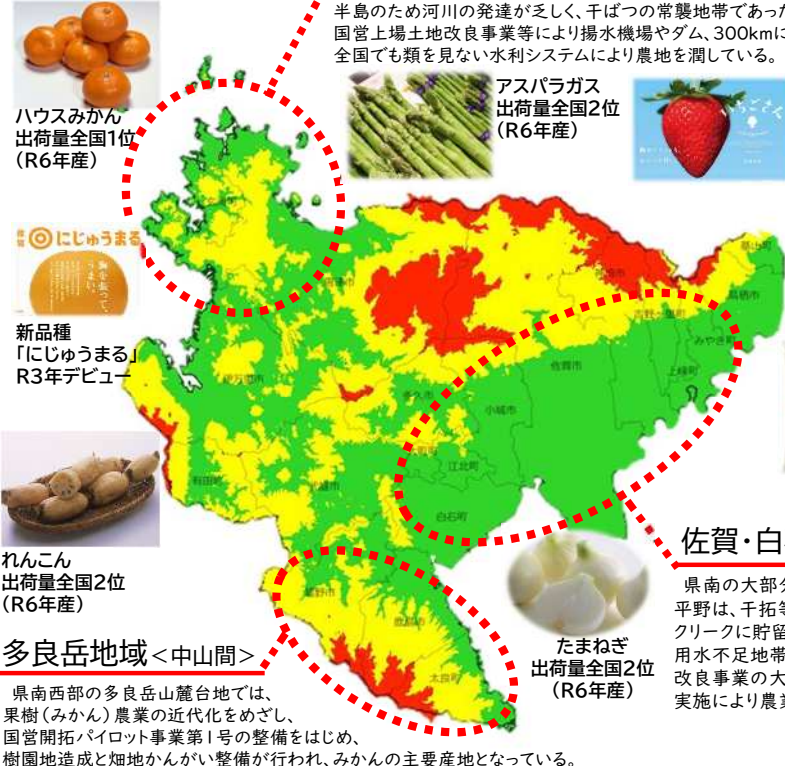


## 佐賀県農業の特色

佐賀県は温暖な気候で、北に玄界灘、南に有明海という異なる海を持ち、脊振山系や多良岳山系、また上場台地などの中山間地域とクリークが縦横に走る肥沃な佐賀・白石平野の平地を併せ持っています。特に広大な平野は、自然造陸と有明海の干拓により拓いてきた土地ですが、後背山地は狭く、保水力が低いという特徴から、『降れば大水、照れば干ばつ』と言われ、水不足に悩んできました。現在の豊かな佐賀県農業が在るのは、成富兵庫茂安を始めとする先人の知恵と工夫、農業に携わる人の努力によって農業用水を確保してきた賜物です。また、全国に先駆けて農地や農業水利施設の整備などの土地改良事業を実施してきたことで、今や耕地利用率39年連続全国1位、食料自給率西日本1位と大きく発展を遂げました。15年連続特A評価の「さがびより」や「いちごさん」をはじめ、多くの唯一無二の本物の農産物を生み出し、日本の食料生産に貢献し続けています。

### 上場地域<中山間>

県北西部の東松浦半島に位置する上場台地は、県を代表する畑作地帯。半島のため河川の発達が悪く、干ばつの常襲地帯であったが、国営上場土地改良事業等により揚水機場やダム、300kmに及ぶ水路の全国でも類を見ない水利システムにより農地を潤している。

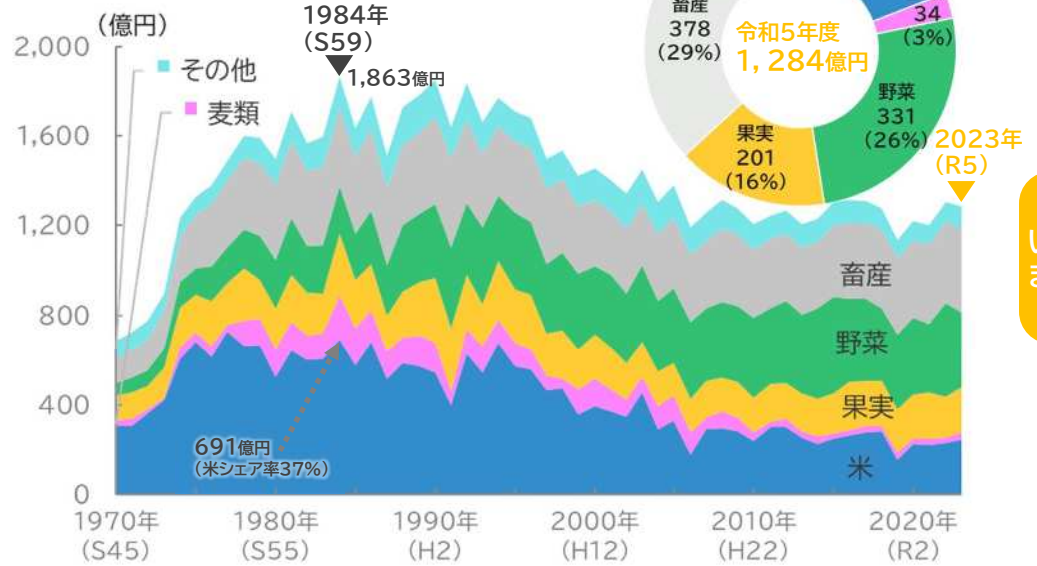


### 佐賀・白石平野<平坦>

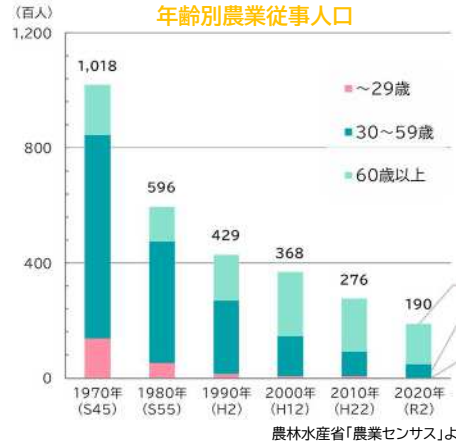
県南の大部分を占める佐賀平野及び白石平野は、干拓等により造成された低平地であり、クリークに貯留し反復利用するものの恒常的な用水不足地帯であった。国営筑後川下流土地改良事業の大規模な排水システムの再編成等の実施により農業用水の安定供給が可能となった。

## 農業算出額 農林水産省「生産農業所得統計」より

佐賀県は、米・麦・大豆を中心とした水田農業が盛んで、農地・施設の一次整備が完了した1980年頃に農業産出額のピークを迎えている。しかしながら、昨今、米の需要減少や米価変動、担い手の高齢化・減少、労働力不足等により、農業産出額は大きく減少してきている。



## 農業を取り巻く環境と課題



### 施設の老朽化



### 気候変動による異常気象の影響



社会的な人口減少・高齢化により、農業従事人口の減少も著しく、基幹的農業従事者数は、2050年には約5,000人となる見込みです。また、農業インフラの一次整備から40年以上が経過し、施設の老朽化も進行しており、過疎・高齢化により農業の担い手が減少する中、各農業インフラを地域農業の将来像に合うように、管理水準を適正化することが喫緊の課題です。

さらに、気候変動による異常気象の影響も大きく、平成30年から4年連続で大雨特別警報が発令される一方、かんがい期には渇水で悩まされる等、これまでと比べると雨の降り方が変わってきており、気候変動に対応した対策が求められるとともに、水稻品種の多様化に伴う水利権量と用水需要のギャップ解消や、農業水利施設の治水活用等、地域の水需要に応じた機動的な配水を可能にするための仕組みが必要です。

## 施策の展開方向

佐賀県においては、「さかの食と農を盛んにする県民条例」(平成17年4月施行)に基づき、農業及び農村の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本計画として、「佐賀県『食』と『農』の振興計画2023」を策定しています。

佐賀県の農業農村整備は、佐賀県農業・農村の持続的発展に向け、『磨き、稼ぎ、つながる農業の確立(農業の振興)』と『活力ある農村の実現(農村の振興)』を柱として、各種施策を推進しています。

### 佐賀県農業農村整備

#### 磨き、稼ぎ、つながる農業の確立 (農業の振興)

- ・農地・農業水利施設の効率化に向けた取組の推進
- ・農業水利施設の管理体制の再構築

#### 活力ある農村の実現 (農村の振興)

- ・快適で安心・安全な農村づくり

#### 重点取組

さが園芸888運動

チャレンジ! 活質あふれるさが園芸へ



#### 重点取組

内水対策プロジェクト  
プロジェクトIF



## これからの農業農村整備イメージ

これから人口減少や高齢化等による担い手の減少が進み、また、気候変動への対応など、農業農村の姿は大きく変化する時代を迎えます。併せて、これまで整備された農地や施設は半世紀が経過し、施設を管理してきた土地改良区や集落による管理体制も、これら社会情勢の変化に大きく影響を受けることが想定されます。

このため、地域の農業農村の将来を見据え、誰がどう施設を使用していくのか、これからどう管理していくのかを、地域でしっかり話し合い、合意形成を図りながら、地域が必要とする農業農村整備事業をハード・ソフト両面で実施していく必要があります。



## さが園芸888運動

佐賀県の農業は、米・麦・大豆を中心とした生産性の高い水田農業が展開され、日本の食料自給率に大きく貢献してきましたが、昨今、米の需要減少や担い手の減少等により、農業産出額は20~30年の間に大きく減少しています。こうした情勢においても農家所得の向上や、産地を発展させていくため、県では、農業団体や市町等と一体となって、『さが園芸888運動』を展開しています。

さが園芸888運動  
チャレンジ! 活質あふれるさが園芸へ

好循環の実現、  
その延長線上に  
園芸作物の産出額888億円  
(H29:629億円→R10:888億円)

### 園芸団地等基盤整備状況



## 内水対策プロジェクト プロジェクトIF

令和3年8月の豪雨は、数十年に一度と言われるような豪雨でした。気象変動の影響もあり、近年では毎年のように同規模の豪雨が発生し、県内各地で内水氾濫が発生しています。これまでの内水対策は、関係するそれぞれの機関で独自の対策を行ってきましたが、より効果的な対策となるよう、各機関が連携した「人命等を守る」「内水を貯める」「内水を流す」ことを柱としたプロジェクトIFを立ち上げました。

※ プロジェクトIFの「IF」とは、Inland water Flooding (内水氾濫)の略称であり、「仮に「万が一」という意味でのifとかけ合わせたもの

自然造陸と干拓で拓かれた佐賀平野では、有明海の干満差の影響を受けやすく内水氾濫が発生しやすい特徴があります。満潮時に有明海や河川等へ排水できない場合において、農業用施設や水田を活用して「内水を貯める」ことが効果的であることから、農家や地域住民、施設管理者、市町の理解と協力を得ながら取組の拡大を推進しています。

### 内水対策プロジェクト プロジェクトIF

人命等を 守る

- 内水監視カメラ等活用
- 浸水センサー 活用
- 農業機械避難 等

内水を 貯める

- 田んぼダム 推進
- ダム・クリーク等の貯留能力向上
- ため池の更新・治水対策

内水を 流す

- 排水ポンプ車の導入
- 排水機場の機能向上
- 河川整備、浚渫・伐採

**田んぼダムの推進** 貯

県内計260万t (R6)

田んぼダム 未実施

田んぼダムせき板

神埼市ほか11市町

**クリークの事前放流** 貯

確保容量県内約1219万t (R6)

貯水堰ゲート 整備中

佐賀市ほか9市町

**下流排水機場の排水機能強化** 流

ポンプ増設 7.5t/s → 10.5t/s

大町町

## 農地・農業水利施設等の管理の適正化に向けて

背景  
課題

- ・国・県・市町・土地改良区が一体となって整備してきた農地・農業水利施設等は、昭和62年をピークに概ねの整備が完了し、施設等は管理体制へと移行。
- ・人口減少や気候変動、燃油等エネルギー価格の高騰など、社会情勢や自然環境が大きく変化。
- ・多くの施設の老朽化が進み、更新時期を迎えているが、様々な地域の課題があり、土地改良区等の施設管理者だけでは解決できない状態。

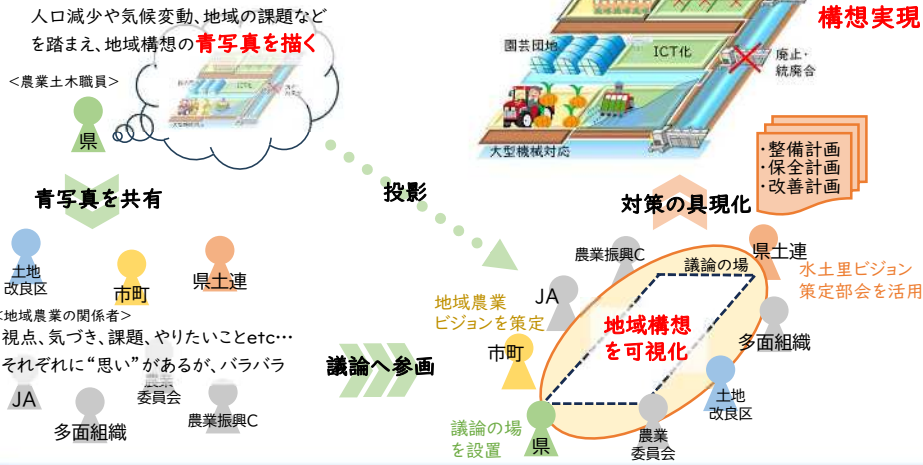
取組

地域農業の将来を見据え、農地・農業水利施設等の農業インフラをどのように保管理し活用していくのか、しっかり地域で考えハード・ソフト両面から**農地・農業水利施設等の管理を適正化していくこと**が必要！

取組

農地・農業水利施設等が、これからの地域に合った姿となって、将来にわたり適正に管理されていくよう、地域が抱える課題の解決に向け、地域農業の関係者の参画による議論を進め、対策を具現化していく**構想実現の仕組み**をつくる。

### <取組イメージ>



『佐賀県農地・農業水利施設等管理の適正化協議会』で議論し、課題ごとに対策を検討・実践！

佐賀県農地・農業水利施設等管理の適正化協議会 (R5.2.15設立)

実務者会議を設置	ため池適正管理対策	クリーク地域における用排水対策	土地改良区運営基盤強化対策
畑かん地域対策	営農構想の実現に向けた基盤整備対策	頭首工等再編対策	集落における施設等の保全活動の充実・強化対策

土地改良区の経営診断を実施 (R5~6)

水士里ビジョン策定の取組 (R7~9)  
県内45土地改良区において、経営診断の結果を踏まえ、水士里ビジョン策定に着手。

効果  
土地改良区毎に関係者間の協議の場が設置され、課題解決に向けた取組が実践されている。

## 取組事例紹介

### 取組事例一覧

1	園芸団地の整備と新規就農者の確保	大町町 下大町地区
2	ため池の事前放流による内水被害軽減の取組 ～焼米ため池を活用した流域治水対策～	武雄市 白石町
3	農業水利施設の再編の推進 ～園芸産地の次世代への継承～	唐津市 浜玉畑総地区
4	地域営農ビジョンの実現に向けた施設の統廃合	佐賀市 久保田地区
5	担い手への農地の集積・集約と農地の大区画化	伊万里市 東山代干拓地区
6	企業・法人参入の推進～ニーズに応じた農地整備～	県内全域



# 1. 園芸団地の整備と新規就農者の確保

- 背景課題**
- 所在地：大町町下大町地区
  - 地区面積：1.3 ha
  - 主な作物：米、麦、大豆、キュウリ



- ・県営ほ場整備事業(S48~S62)で整備した農地で、米麦大豆の土地利用型農業を展開。
- ・農家の高齢化や担い手不足が進む中、将来を担う農家の育成が急務。

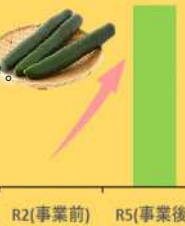
- 効果**
- 1) 施設園芸作物の作付による**所得の安定化**
  - 2) **新規就農者の確保・育成** が必要!

- 取組**
- ・地域のキュウリ農家や新規就農者のニーズに応じた**園芸団地を整備**。
  - ・温度や湿度を自動で管理できる**情報技術(IoT)**を導入した**ハウス建設**。
  - ・地域のキュウリ農家が、入植した新規就農者の指導・相談役となり支援。

- 効果**
- ・分散した農地を担い手に集積し、情報技術を導入したことで、コスト・労力の低減と効率的な生産が可能に。
  - ・「佐賀大町キュウリ」の特産品化の推進し、更なる所得向上を目指す。
  - ・キュウリ団地整備後、近隣にねぎハウスも整備され、園芸団地化が進行中。

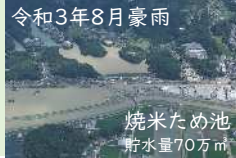


販売額の実績(百万円)  
【作付面積(0.9ha)】



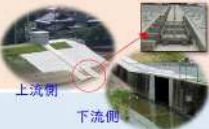
# 2. ため池の事前放流による内水被害軽減の取組 ～焼米ため池を活用した流域治水対策～

- 背景課題**
- 所在地：武雄市北方町
  - 受益面積：約770ha(白石町)
  - 主な作物：米、麦、大豆、たまねぎ



- ・令和元年、令和3年の豪雨による洪水で甚大な浸水被害が発生。
- ・武雄市に位置するため池だが、用水受益は六角川対岸の白石町であり、治水(武雄市)と利水(白石町)で関係者が異なる。

- 効果**
- 流域の関係者が一体となって **農業水利施設の治水活用(流域治水)** に取り組む!



- 取組**
- ・県が調整役となって、**治水活用の検討会**を開催。(R1~)
  - ・大雨前ため池内水位を下げ、空き容量を確保するため、**事前放流施設を整備**。(R3~4)

- 効果**
- ・最大で約20万㎡の洪水調整容量の確保が可能。
  - ・令和5年から供用開始し、試験運用を重ね、令和7年には武雄市と白石土地改良区で**治水協定**を締結し、本格運用を開始。被害軽減に向けて、運用の研鑽に努めていく。



# 3. 農業水利施設の再編の推進～園芸産地の次世代への継承～

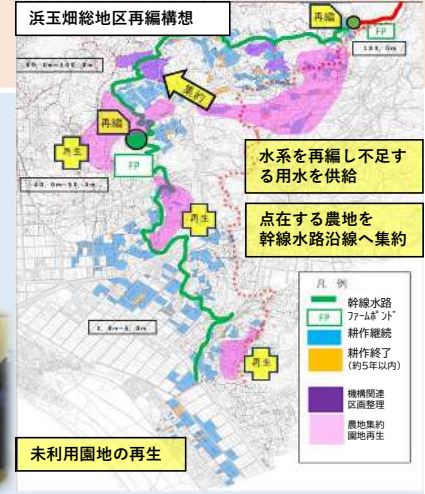
- 背景課題**
- 所在地：唐津市 浜玉畑総地区
  - 地区面積：1,168ha
  - 主な作物：ハウスみかん、小葱、いちご、アスパラガス



- ・畑地帯総合整備事業(S49~H6)によりかんがい施設を整備したことで、ハウスみかんの一大産地に。
- ・整備から40年以上経過し、施設の老朽化や担い手の減少により、施設の維持管理にかかる負担が増加。
- ・近年、多様な高収益作物の作付増加や企業の経営体が参加している

- 効果**
- 将来の地域農業を見据えた **施設の再編(スリム化)** が必要!

- 取組**
- ・営農状況の見える化や土地改良区理事を中心とした若手農業者との話し合いの場を設置。
  - ・コンパクトで使いやすい施設と営農の効率化に向けて、**施設再編計画**を作成中。
- 効果**
- ・果樹や野菜など園芸作物の産地を拡大・発展。
  - ・園芸作物のブランド化により収益向上。
  - ・将来を担う、若手農家に優良な園地を継承。



# 4. 地域営農ビジョンの実現に向けた施設の統廃合

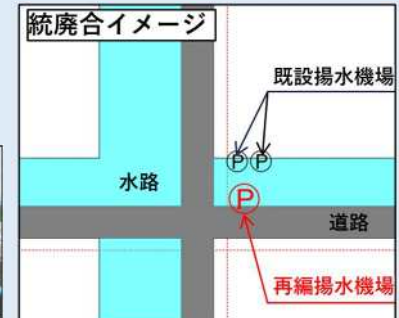
- 背景課題**
- 所在地：佐賀市 久保田地区
  - 地区面積：850ha
  - 主な作物：米、麦、大豆、たまねぎ、いちご、れんこん

- ・県営ほ場整備事業(S45~S55)で基盤整備を実施。
- ・米麦大豆を始め、たまねぎ・いちご・れんこん等の多角的な経営を行っている。
- ・整備から40年以上経過し、パイプラインの漏水や揚水機場の老朽化が著しい。

- 効果**
- 施設をコンパクトにするとともに、担い手への集積を促進し、**地域営農ビジョンを実現**

- 取組**
- ・久保田地区の**営農ビジョン**を作成し、将来の営農目標を明確化・関係者間で共有。
  - ・**用水施設の統廃合**により、管理する施設数をコンパクトに。
  - ・暗渠排水の整備により**水田の畑地化・排水改良**。

- 効果**
- ・施設維持費・水管理労力を縮減。
  - ・高収益作物への転換の推進。



## 5. 担い手への農地の集積・集約と農地の大区画化

背景課題

- 所在地：伊万里市 東山代干拓地区
- 地区面積：49.9ha
- 主な作物：米、麦、大豆、たまねぎ



- ・代行干拓事業(S21～S38)により伊万里湾を拓いた農地で、水稻を中心に営農。
- ・区画が狭小・点在していることから作業効率が悪く、農業者の負担が大きい。
- ・農業者の高齢化・後継者不足で、地域の担い手数が減少。

✓

将来の担い手が、安心して農業経営していくための基盤整備や体制づくりが必要!

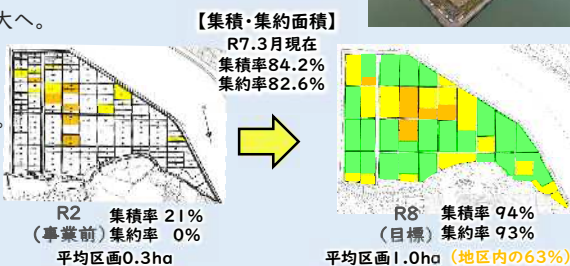
取組

- ・農地中間管理機構を活用し、集積・集約を加速。
- ・担い手への農地集積・集約とあわせて、農地の区画拡大。
- ・暗渠排水による乾田化で、麦・たまねぎなどの裏作物の導入。



効果

- ・作業効率が向上し、経営規模拡大へ。
- ・大区画化した農地に合わせた共用営農機械の導入やドローンによる防除なども可能に。



## 6. 企業・法人参入の推進～ニーズに応じた農地整備～

背景課題

- ・基幹的農業従事者の減少が進行。
- ・県内各地で担い手不足、耕作放棄地の増加が顕著。



✓

新たな担い手として、意欲ある企業や農業法人を呼び込む!

取組

- ・企業や農業法人のニーズに合うオーダーメイドの農地整備を実施。

～参入までの流れ～



効果

- ・県内各地で企業の農業参入、農業法人の規模拡大が進み、農業産出額の向上に繋がっている。
- ・地域農業を支える一員となって、県民とともに農地や農村の維持・保全を担っている。

# SAGAよか農フォトコンテスト 2024～2025



受賞作品

シーズン1【2024年9月1日～2024年12月31日】

シーズン2【2025年1月1日～2025年6月30日】



最優秀賞:食農で佐賀産を下支え



最優秀賞:植える米に愛情を乗せて



優秀賞:棚田の夕暮れ



優秀賞:今かすっけん※、ちよっとまってえ ※佐賀弁で「食べさせるから」



優秀賞:joy of living



優秀賞:田まわり

公式Instagram

#佐賀の農山村で推しを探してみた





# さかの農業農村整備2025

発行／佐賀県農林水産部農山村課

〒840-8570 佐賀県佐賀市城内1丁目1番59号

TEL : 0952-25-7124

FAX : 0952-25-7284

E-mail : nousanson@pref.saga.lg.jp



**佐賀県**  
SAGA PREF.